

学生ならびに会員向けランチョンセミナー 「ジェンダーバランスがもたらす改革とイノベーション」報告

男女共同参画推進委員会 中央大学 山 村 寛

男女共同参画推進委員会では、日本水環境学会における男女共同参画を推進することにより、多様性のある構成員による学会の活性化を目指しています。これまで、年会やシンポジウムにおいて、女性のキャリア支援に関するセミナーやセッションを開催したほか、「水分野で働く女性たち」という特集企画を学会誌で取り上げることで、水分野における女性の活躍を推進してきました。一方で、男女共同参画を再考した際に、女性だけでなく、女性を取り巻く社会や男性、また会社などの組織においても意識改革が必要であり、取り組みの先には、「組織や社会が男女共同参画に取り組むことで発展する」という共通意識があってこそ、一丸となって男女共同参画に取り組めるものという考えに至りました。

逆の意味で捉えれば、男女共同参画に取り組める環境があれば組織や社会の発展が見込める、ということになります。昨今、外出自粛規制の影響でテレワークやテレカンファレンスが在宅勤務の強力なツールとして活用が進んでいますが、これまでは、産休や育休にともなう在宅ワークの補助ツールとして導入を検討・推進する企業が多かったように思います。今回、これらのツールが（半強制的に）導入された結果、その利便性や有効性について多くの人々が認知するようになったのではないかと思います。実際に、人財と市場をグローバル化する上で極めて有効なツールとなり得ると感じた人も多いのではないのでしょうか？

私自身、大学における授業や研究活動も、これらのツールをうまく活用することで、場所や時間に縛られない、新しい展開に挑戦できるように感じました。別の言い方をすれば、男女共同参画をはじめとした多様性を推進するための環境推進とイノベーションを実現するための環境推進は、方向性が一致しているのでは？と感じています。

第54回日本水環境学会年会では、「ジェンダーバランスがもたらす改革とイノベーション」という企画名で、ランチョンセミナーの開催を予定しておりました。セミ

ナーでは、女性会員だけでなく、男性会員や様々な年代の方に参加いただき、社会全体としてジェンダーバランスの推進を醸成することを考えておりました。具体的には、産官学の各部署で男女共同参画に携わる方や現場で活躍する以下の3名より、ジェンダーバランスを推進することによる効果や目的、成果について、事例を交えながらお話いただく予定でした。

「男女参画の目的や計画、事例など」

岩手県 男女共同参画センター センター長

山屋 理恵 様

「大学での取り組みや成功例」

岩手大学 副学長

(男女共同参画・広報・マネジメント担当)

男女共同参画推進室長

宮本ともみ 様

「民間企業での取り組みや成功例」

日立造船株式会社 業務管理本部総務部

ダイバーシティ推進室長兼ブランド推進グループ長

池田 明弘 様

今回のイベントは誠に残念ではございますが、新型コロナウイルス感染の急速な拡大を受けて中止となりました。お忙しいところご講演をお引き受けくださり、また、発表準備も進めてくださった講師の皆様には感謝申し上げますと共に、セミナーの開催に向けてご尽力いただいた学会関係者の皆様には心よりお礼申し上げます。また、当日、参加を楽しみにしていただいていた皆様には、改めてお詫び申し上げます。

今後、ジェンダーの平等をベースとした活力ある社会の実現を目指し、学会として、様々な取り組みを推進して参りたいと考えております。引き続き、皆さま方のご支援・ご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。